

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活共同組合	代表者	竹生正人	法人・事業所の特徴	勝山きらめき小規模多機能ホームは「あなたらしさいつまでも」を基本理念とし、「生協10の基本ケア」に基づいたケアを実施しています。利用者の日常生活行為そのものをリハビリと捉え生活動作の維持、向上への支援を行っています。利用者の幸せと地域社会の為に新型コロナウイルス感染症への対策を考慮しながら認知症の方に優しい地域作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 勝山きらめきハウス	管理者	笠川明美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	4人	人	人	2人	人	3人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の「～したい」を引き出し実現する為に個別で対応し関わりをもつ事で在宅生活の継続につながる自立支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が担当利用者の「～したい」を引き出し、出来る事、ここまでなら出来る、～を手伝えれば出来る等、細かくアセスメントし全職員に伝達し連携出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価について、メンバー間でよく話し合いができ評価されている。 改善計画が少し抽象的な表現になっているように思う。「何を」「どのように」というところが具体的な表現にすると評価しやすいと思う。 常勤職員人数の記載がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅での自立支援につながるように ADL 状態も細かくアセスメントする。 担当利用者の定期的なミーティングの継続と「軒下マップ(本人を中心とした周囲との関係性を表した図)」を活用する。 改善計画は、具体的な表現にしていく。常勤職員の人数を記載する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 頂いた地域の声を勝山きらめき全体の意見として受け止め、出来る事、出来ない事を明確にし報告していく。来訪者からもいろいろな意見を頂き、より良い施設にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策により多目的室の利用の中止が1年間続き施設内での地域との交流が出来なかった。 施設の敷地を利用し利用者と一緒に畑で野菜を作り、地域の方との交流が出来た。 施設内では感染対策とソーシャルディスタンスを保ちながら利用して頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で書面での報告となり、施設を訪問していないので、状況がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの状況は来年度も変わらないと思われる。その中で生協本部と相談しながら地域の方が安心して来訪出来る施設にしていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が地域の行事に参加するだけでなく準備段階からも関わらせてもらい目に見える関係を構築していく。 ・地域行事、日程を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事もほとんどが中止になったがその状況の中でも開催された行事の日程を確認し、参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域との交流がむずかしい状況ですが、地域との関わりを大事にされていると思う。 ・きらめきで出来る事を、地域に発信できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策を行い今後もきらめきとして何か地域のお役立ちが出来ないか考えていく。 ・壮年会、長寿会、子供会の行事や小中学校の資源回収のお手伝い等、地域との関わりを深める。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の利用者だけではなく、利用者全員の担当の民生委員にカンファレンスの参加の声かけ（介護者さんの了承を得て）を行っていく。 ・各利用者の避難所や避難方法、薬剤情報等の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居利用者の民生委員に担当者会議に参加して頂き緊急時の対応等話し合うことが出来た。 ・今回の豪雪を受け全利用者本人、介護者の自助（避難所で過ごすことが出来るか否かも含め）の把握が重要だと改めて考えさせられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議が出来ない中でも、事業内容についてお知らせが届き知ることができている。 ・コロナ禍で外部とのつながりが難しいと思いますが、利用者が住む地域の情報は把握できているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の参加は継続し、今後は地区社協担当者（必要な利用者）にも参加を依頼する。 ・自助の確認をしていく。 ・利用者が住む地域の情報については、独居の方の地区の回覧板の確認を行う。（年間、月間の行事の確認が出来る）
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を通して地域の中できらめきが果たしている役割やきらめきに対してどのような思いがあるかを話し合っていく。 ・資料配布は継続し、会議の前日には電話で連絡確認をする。 ・利用者・家族の参加の声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい役員の方には施設長、管理者が事前に挨拶、会議の説明などを行っている。外部評価に関しても、説明をしながら評価して頂いた。 ・今年度は書面での報告になり参加していただく方の意見を伺うことが出来なかった。 ・利用者、家族には今の状況での参加は難しいが再開時にはぜひとも参加していただきたいと担当者会議の時に伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、会議が開催されず、評価が出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部と相談し多目的室の利用の再開、又は他の場所を検討し、新型コロナウイルス感染対策を考慮しながら会議の開催を行っていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練の日程を確認し事業所だけでなく地域全体の防災・災害対策を行なう。 ・元町地区の福祉避難所を担える対策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練は中止になった。 ・施設内での避難訓練は行えている。（2回/年6月・11月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する内容がわからない。 ・コロナ禍で防災訓練はできなかったのか。（⇒実施している。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の防災訓練の開催の有無の確認を行う。 ・元町地区の福祉避難所を担える対策の検討を継続。（緊急時を想定した対応、職員体制の確保、個別の支援内容等）